

## 〈 社会人の窓 30 〉

### 轡塘のこと



中川 一

「轡塘」、これ何と読むかわかりますか？また、何のことかわかりますか？「くつわども」と読みます。「轡」は馬の口元に手綱を付けるための馬具のことです。猿轡（さるぐつわ）という言葉はよく知られていますね。「塘（とう・つみ）」は堤防のことですが、高山の湿原でよくみられる池塘（ちとう）という池沼、あるいは池の堤・土手にも「塘」という漢字が用いられます。

それでは「轡塘」とは何のことでしょうか。これは戦国、江戸時代に九州肥後（熊本）で用いられてきた遊水システムで、伝統的な治水工法の一つです。馬具の轡の形からこのように呼ばれたようです。この言葉を知っている方はかなりの治水通もしくは加藤清正通の方ですね。

写真1は熊本県の御船川との合流直後の緑川左岸に残る桑鶴（くわづる）の轡塘の空中写真です。図1は藩政時代の緑川と支川の改修（御船川の新川開削や一部の河川の廃川などを含む）の概念図です。御船川を新たに設けて合流後の洪水流の緩和を図ったと考えられます。しかしながら、大本らの研究（河川技術論文集、第9巻、2003年、pp.201～206）によると、洪水の緩和、すなわち、河道内貯留による洪水緩和機能はそれほど期待できなかったことが分かっています。

一方、轡塘にはこれのほかに大きな役割が二つあります。一つは轡塘の堤防の一部を切り下げて、いわゆる越流堤（乗越堤）を築き、堤内地に洪水を氾濫させて河道内水位を下げ、洪水の勢いを緩め、堤防決壊による壊滅的な被害を防止することです。もう一つの役割は轡塘の中に洪水を滞留（貯留）させ、そこで土砂（おそらく掃流砂の多くと浮遊砂の一部）を堆積させて、越流堤からの土砂流入量を極力減らし、堤内地が大規模な土砂堆積で耕作不能になることを防止することです（当時の地租は乗越堤からの距離に比例していたとのこと）。轡塘に堆積した土砂は客土効果で栄養分に富み、この中でも耕作されてきました。いわゆる流作場（堤外耕作地）ですね。現在も轡塘には田畑が存在し、利用されていることが写真1からわかります。

さて、この轡塘の機能をどこかに生かせませندでしょうか。そうです、巨椋池の一部を遊水地として利用し、宇治川の広い高水敷の一部を轡塘のように利用すること

で、超過洪水による宇治川堤防の壊滅的な被害に備えることに利用できないでしょうか。例えば、木津川の上野遊水地のように地役権を設定して耕作を可能にし、土砂堆積による壊滅的な被害を防止することで、持続可能な治水対策と農業を両立させるのです。

加藤清正と豊臣秀吉は二従兄弟（ふたいとこ）の関係（母親同士が従妹）であったことから、秀吉は清正をかわいがり、肥後の国（今の熊本県）を与えて肥後藩主としました。秀吉と所縁の深い宇治川に清正所縁の治水工法が導入されれば不思議なえにしが感じられますね。



写真1 熊本県の緑川に残る桑鶴の轡塘。（出典：九州地方整備局熊本河川道路事務所 HP）←



図1 藩政時代の緑川と支川の改修概念図（出典：九州地方整備局熊本河川道路事務所 HP）←

（日本水防災普及センター副理事長 京都大学名誉教授）

# お知らせ

## 石田裕子氏が河川功労者表彰を受賞

本会総務の石田裕子氏が水資源機構からの推薦により、日本河川協会の河川功労者表彰を受けられました。学識者としての経験を生かし、学生らと継続的にダム貯水池で水没集落の灯りを浮かべる芸術文化的活動を行い、上流から下流までの流域間交流に尽力されるとともに、水源地域の振興やダム管理者および水源地域関係者との良好な関係構築にも寄与されるなど、地域の発展に貢献された功績によるものです。まことにおめでとうございます。

# イベント報告

## 淀川まるごと体験会

4月27日(日)10時から、淀川左岸淀川新橋下流点野砂州、ワンド周辺でねや川水辺クラブと淀川愛好会等主催による「淀川まるごと体験会」が行われ、約100人の参加者がどんぐりなどのクラフト体験、堤防決壊モデル実験、浸水地歩行体験など行いました。摂南大学からも石田先生や学生、ご家族でお越しになった久保田先生が参加し、淀川の魅力や防災に関することを知っていただく機会となりました。(東野 叶空)



## 大川クリーン活動&川で学び・つながる

4月29日(火・祝)10時から、大阪ふれあいの水辺周辺でおお川水辺クラブと淀川愛好会主催による「大川クリーン活動&川で学び・つながる」が行われ、帝国ホテル前から約100人が2組に分かれてゴミ拾いを行った後、ふれあいの水辺で生き物調査とEポート乗船体験を行いました。例年は、摂南大学からも石田先生や多くの

学生が参加するのですが、今年は授業日と重なったため、摂南大学からの参加はなく、代わりに、京都府長岡京市にある立命館高校生徒会の有志が応援に駆けつけてくれました。また、三重県亀山市から「魚と子どものネットワーク」の代表・新玉拓也氏ははじめ五名が参加するなど、新しい動きもありました。(澤井 健二)



## 「いのちをつなぐ水と流域・地球市民ワークショップ」 in 関西万博

5月6日(火・祝)17時から、関西万博で中部ESD拠点協議会、中部大学国際ESD・SDGsセンター主催による「いのちをつなぐ水と流域・地球市民ワークショップ」の「わたしの流域マップをつくろう！」が行われ、「いのちをつなぐ水と流域」をテーマに関西万博のジュニアSDGsキャンプ(サステナドーム)で、地図をつくったり、流域住所を発見したりなど、親子で学んで楽しめる体験型ワークショップが開催されました。

このワークショップは親子でペアとなり、自分たちが住んでいる街の水域を調べ、カラフルな粘土を使用した水域マップを作ろうというものです。私たち石田ゼミ学生は会場設営やペアについて教えながら進めるなど、進行の補助を主に行いました。子供とふれあいながら、イベントをより良い形になるように状況を見て判断し、動くという貴重な体験をさせていただきました。(濱崎 天帆)



## 外来魚駆除釣り大会 in 淀川

5月11日(日)10時から、淀川左岸河川敷・城北ワンド群一帯で淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(略称イタセンネット)主催による「外来魚駆除釣り大会」が行われ、約400人の参加者がブルーギルやブラックバスなどの外来魚の駆除を目的とした釣りをを行い、その間には地引網と釣り上げた魚類の観察会も行われました。摂南大学からは石田先生や学生、大阪工業大学からも学生が参加し、設営や釣り具の準備・運営を行いつつ、外来魚の駆除にも貢献しました。また、外来魚の他に、在来魚の生息も確認することができました。(東野 叶空)



## クリーンリバー寝屋川作戦・春

5月25日(日)9時から、寝屋川市内4箇所でのクリーンリバーが行われる予定でしたが、雨天のため中止となりました。(濱崎 天帆)

## 大川(旧淀川)沿い歴史探訪ウォーキング



6月1日(日)13時から、水辺に学ぶネットワーク主催による「大川歴史探訪ウォーキング」が行われ、「川辺に漂う文学の薫り ～歌碑・句碑探訪」と題して、歌碑・句碑を中心とした水辺巡りを行いました。摂南大学の石田ゼミなど一般人を含む約30名が川の駅はちけんやに集まり、天満橋八軒家浜から大川沿いを歩き、毛馬の閘門・淀川大堰へと向かいました。豊臣秀吉が諸大名に

命じて築かせた淀川改修工事・文祿堤や江戸時代中期の俳人・画家で知られる与謝蕪村の石碑などを訪れ、大阪の文学の歴史に触れる良い機会となりました。

(東野 叶空)

## イベント案内

### 第7回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏 シンポジウム in 大阪

日時: 2025年6月29日(土) 12:30~16:40

場所: エル・おおさか 606号室(大阪府立労働センター)

アクセス: 京阪天満橋駅か西へ約100m

テーマ: 流域圏の恵みと暮らし

プログラム:

12:30 ポスターセッション

13:30 開会挨拶

13:35 基調講演 ・講師 竹門 康弘氏

14:15 総合討論 ・進行 久保田 洋一氏

話題提供

畑中 啓吾氏(大阪市漁業協同組合)

鈴木 康久氏(京都産業大学現代社会学部教授)

岡崎 慎一氏

(近畿地方整備局 河川部 河川保全管理官)

15:00 休憩

15:20 討論再会

16:40 閉会挨拶

主催: 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会

共催: 摂南大学

協力: 学校法人常翔学園

参加費: 無料

### なんたん龍の森夏まつり

日時: 2025年7月26日(土)

場所: ハピロー!の森 京都(京都府立府民の森)

プログラム:

17:00 イブニングマルシェ

18:00 ステージイベント

20:00 花火打ち上げ

主催: 南丹市観光協会

協力: 天若湖アートプロジェクト実行委員会

### 淀川まるごと体験会

日時: 2025年9月21日(日)

場所: 淀川左岸淀川新橋下流点野砂州、ワンド周辺

プログラム: Eボートなどの水辺体験

主催: 淀川まるごと体験会実行委員会

参加費: 無料

## 石田ゼミ始動

濱崎 天帆

1 回生で行った基礎ゼミから石田先生にお世話になっているのでもう 4 年目になりますが、いざ、研究室配属になると今までにはなかった川への調査や、様々な地域の取り組みに参加したりなどと、たくさんのことに触れてきました。川での調査では、胴長を着てどろどろになりながらも地引網をしたり、貝殻を集めたりしました。ワンドによって足元も、捕れる生物も変わってくるのでワンドごとに違った特色があることも初めて知ることができました。泥や濡れることを気にせずに川に入っていくことは、普段では味わえない楽しさがあります。また、淀川まるごと体験会では、竹の切り口を口に見立てたカエルや、どんぐりや木の板、木の葉などを使った自由工作も行いました。この体験会には子供も多く参加していましたが、私たち学生も子供の頃を思い出しながら自分だけのストラップ作りを楽しみました。子供と触れ合う機会と言えば、関西万博で行われたワークショップです。主に家族でペアになって自分たちが住む流域について知ろう！というものでしたが、私たち学生はこのペアワークのサポートを行いました。ここでは、子供たちとどのようにコミュニケーションを取ってあげたらいいのか、楽しんでもらいつつ学びにも繋げるにはどうすればいいだろうか、と考えることを考えながら補助に回りました。今回は、子供の心に戻ると言うよりも、子供に寄り添うことを意識しながらのワークショップでした。



このように様々な形で、子供と触れ合いながらも学べる機会があることもこのゼミの良さの一つだと感じます。これからは研究や活動が忙しくなるので、この時期は特に熱中症に気をつけながら各々の活動に励んで行こうと思います。

(撰南大学理工学部都市環境学科石田ゼミ 4 年)

## 書籍紹介

### 振り返れば未来 山下惣一聞き書き

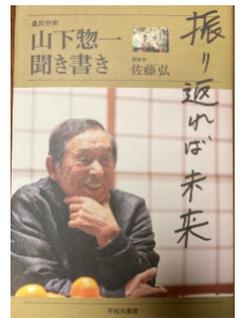
聞き手 佐藤弘

発行：不知火書房 2022 年 12 月 10 日

四六判 465 頁 定価：2200 円

第 1 章 生い立ち 第 2 章 就農 第 3 章 近代化前夜 第 4 章 いま、村は大ゆれ 第 5 章 野に誌す 第 6 章 農家の父より息子へ 第 7 章 北の農民 南の農民 第 8 章 日本人は「食亡き国」を望むのか 第 9 章 安ければ、それでいいのか!? 第 10 章 身土不二の探求 第 11 章 農政棄民 第 12 章 タマネギ畑で涙して 第 13 章 市民皆農 第 14 章 農の明日へ

2022 年 7 月に亡くなった農民作家の山下惣一さんの人生と作品の軌跡を振り返った聞き書き。山下文学、山下農業論・百姓学・哲学のすべてが詰まった力作。



## 編集後記

石田裕子先生が日本河川協会の河川功労者として表彰を受けられました。淀川愛好会から澤井健二氏、綾史郎氏に次いで三人目となります。おめでとうございます。

中川一氏の社会人の窓のなかで、「嚮塘・くつわども」という漢字の読み方の難しさと流域治水に関する美しい治水対策が過去に存在していたということです。明治以降、近代になってこのようなことが「なぜ？」考え利用されてこなかったということです。

頻繁に起こる洪水に対して堤内地の人工的な自然（田んぼ）を堤外地耕作とし、嚮塘を描き、大きな役割が二つあるという流域治水を描き直す必要があるのではないかと思います。現在は個人が所有しております。

長い歴史の時間軸において、農業を踏まえて考えていかなければならない視点かも知れないと思います。

書籍紹介のなかで、山下惣一氏は、農業は循環であって成長ではないという。

今年とはとくに米騒動が起こっています。

編集長 岡崎善久 (岡崎善久建築設計事務所)